

問題 以下の文章を読み、自分の読書法について、あなたの考えを 600～800 文字で述べなさい。

勉強の基本と言えば、やはり読書。人間は知識や経験を文字として残し、それを受け継ぐことで進化してきました。人間が地球の歴史からすればとてつもない短い期間で進化することができたのも、本のおかげだと言っていいでしょう。

いつの時代になっても、どれだけテクノロジーが進化しても、すべきことは同じです。電子書籍だとしても、やはり本を読むという行為には変わりありません。おそらく、これはずっと変わらないと思います。

読書の利点は、小学生ほどの知識があれば、著者である一流の学者と議論できるレベルにまでなれることです。スーパー小学生がニュースになったりしますが、そのレベルの知識を持っている子どもたちは少なくないと思うのです。実際、私の周りにもいます。

問題は、それをうまくアウトプットできないことです。これは大人にも言えることですが、本を読む人のほとんどが娯楽として楽しむか、知識を得るためか、教養を身につけることを目的としています。これらは、いずれもインプットのための読書であって、アウトプットはあまり意識されていません。

そうすると、せっかく読んだものが外に出てきません。知識も教養も体のなかに吸収されてしまって、見えなくなってしまうのです。吸収と言うと聞こえはいいのですが、それは消えてしまうということでもあります。

確かに、ある人と話していて、ふとした瞬間に「この人は知識があるな」「教養人だな」と感じることはあります。ただ、それではもったいない。AIに負けない思考をするためには、常に知識や教養が意識的に引き出せる状態にしておかなければなりません。昔読んだ記憶があるというだけでは、ないに等しいのです。

思考は、読書を含めた経験がベースになっていることがほとんどです。とするならば、いかに使える知識があるかが、思考の幅に影響を与えます。このような人のことを「引き出しが多い」と形用したりしますが、まさにさっと引き出せる武器が手元に準備してあることが理想です。そのためには、楽しむのでも、知識や教養のためでもない、新たな読書法が必要となります。

これが「娯楽でも知識でも教養でもない読書術」です。「使うための読書」と言ってもいいでしょう。何に使うのか？もちろん思考です。

具体的には、本を工具箱のようにとらえます。本は思考のためのアイデアが詰まった工具箱だと思えばいいのです。そうすれば、読み方が変わってきます。